

親子関係改善が鍵

公的な仕組みは貧弱

施設の子の心のケアは今 ①

児童養護施設で暮らす子どもたちの心のケアの重要性は、現場で働く人たちが一番強く認識している。ただ、それを支えるための公的な仕組みは貧弱なままだ。

「専門職にもかかわらず、待遇は低く離職者も多い」。東京都が設置し、都社会福祉事業団が運営する児童養護施設で働く臨床心理士たちが昨春、労働組合を結成した。

大学院修士課程を出て施設で働く委員長の木村秀さん(31)は非常勤で、年収は200万円強。「トラウマを抱える子どもと話すうち、『変わりたい』と

言うてくれるようにならず、待遇は低く離職者も多い」。東京都が設置し、都社会福祉事業団が運営する児童養護施設で働く臨床心理士たちが昨春、労働組合を結成した。

1人出ただけで、子どもたち全員が情緒不安定になってしまった。3年前に開設されたばかりの民間児童養護施設「望みの門かずさの里」(千葉県富津市)の戸波宏幸施設長は子どもたちの心の繊細さに改めて驚かされた。

「親元に帰れる子が合いたいと木村さんたちは願っているが、『財政難』を理由に待遇改善はなかなか進まない。

「親元に帰れる子が1人出ただけで、子どもたち全員が情緒不安定になってしまった。3年前に開設されたばかりの民間児童養護施設「望みの門かずさの里」(千葉県富津市)の戸波宏幸施設長は子どもたちの心の繊細さに改めて驚かされた。



かずさの里は、卒園直前の一人暮らし体験や、訪ねてきた家族と泊まれるアパートのような部屋もある。左は戸波宏幸施設長、右は千葉県富津市

「親との関係改善」は子どもたちの心を大きく揺れ動かす。しかし、親の問題は子ども以上に難しく、そこまで取り組んでいる施設は少

ない。
NPO法人「アニー基金」(千葉県流山市)が全国の施設などを対象に行ったアンケート調査では、「児童福祉予算が劣悪なのが根本的な問題」との声も寄せられた。

同基金代表の日高真智子さんは「本当は親と子の両方のカウンセリングが必要。でも児童相談所も養護施設も人が足りない」と嘆く。

それでも子どもたちの心の中は複雑だ。ほとんどの子が親から虐待を受けている。常勤の臨床心理士がいて助言ももらうが、「その子その子への対応をどう見つけるか」と悪戦苦闘の日々だ。

さらに、若手が多い職員たちは現場で学んでもらうしかなく、戸波さんは「やはり専門性を高める研修機関連をつくらなければならない」と無理だと思つ。